様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　５ 月　７ 日現在

機関番号：１２６０３
研究種目：国際共同研究加速基金（国際共同研究強化(B)）
研究期間：2020～2023
課題番号：２０ＫＫ０００７

研究課題名（和文）タイ少数民族における持続可能なコミュニティ協働型言語・文化ナレッジベースの構築

研究課題名（英文）Construction of sustainable collaborative knowledge base of a minority language and culture of Thailand

研究代表者
中山　俊秀（Nakayama, Toshihide）

東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・教授

研究者番号：７０３３４４４８

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　14,300,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、タイの少数民族である黒タイ族の消滅の危機に瀕する伝統言語・文化を対象に、コミュニティとの協働を通じてコミュニティの関心を反映した多面的ナレッジベースを構築した。新型コロナウイルスの影響により現地活動に制約があったが、オンラインでの連携やコミュニティメンバーの主体的な参画により、言語・文化の記録と分析を進めた。収集した知識をコミュニティにおける言語・文化再活性化に活用するためのノウハウや手法の開発に取り組んだ。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究は、言語学、社会言語学、人類学の知見を融合し、消滅の危機に瀕する言語・文化の記録と再活性化に新たなアプローチを提示した。コミュニティとの協働を研究の核に据え、メンバーの主体的な参画を引き出すことで、生きた知識の収集と共有を実現した。この協働モデルは、他の言語・文化再活性化プロジェクトにも応用可能な事例ともなった。研究成果は、学際的な国際学会等で発信され、他コミュニティとの知見の共有も図られた。

研究成果の概要（英文）：This research project aimed to construct a multifaceted knowledge base reflecting the community's interests, focusing on the endangered traditional language and culture of the Black Tai ethnic minority in Thailand, through collaboration with the community. Although on-site activities were constrained due to the impact of the COVID-19 pandemic, the project advanced the documentation and analysis of the language and culture through online collaboration and active participation of community members. The project also worked on developing strategies and methods to utilize the collected knowledge for revitalizing the language and culture within the community.

研究分野：言語学、言語ドキュメンテーション

キーワード：消滅危機言語　言語文化再活性化　タイ

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１（共通）

１．研究開始当初の背景

本研究は、タイの少数民族である黒タイ族の伝統言語と文化が消滅の危機に瀕する中で、従来単発的に行われてきた言語・文化情報を包括的に、しかもコミュニティにおける言語・文化再活性化に活かせるような形で集積することが求められているという状況を背景に開始された。黒タイ族は、タイ北部を中心に約 1 万人が暮らしているが、若い世代を中心に黒タイ語の使用が減少し、伝統文化の継承も危ぶまれている。この状況は、黒タイ族に限ったことではなく、グローバル化の進展により、世界中の少数民族の言語や文化が急速に失われつつあることの一例である。言語や文化の消滅は、単にその民族のアイデンティティが失われるだけでなく、長い歴史の中で培われてきた知識や価値観が失われ、ひいては人類全体の多様性が損なわれることを意味する。こうした危機感から、黒タイ族の言語と文化を記録し、保存・継承していくための取り組みが急務であると考え、本研究プロジェクトを立ち上げた。

２．研究の目的

本研究の目的は、黒タイ族の伝統言語と文化に関する包括的なナレッジベース（知識基盤）を構築することである。ナレッジベースには、言語の文法や語彙、音声などの言語学的情報だけでなく、儀礼や芸能、伝統技術、世界観など、黒タイ族の文化に関する幅広い情報を収録する。特に、言語や文化の継承の鍵を握る若い世代の視点を取り入れることを重視した。ただし、ナレッジベースの構築を研究者主導で進めるのではなく、現地の黒タイ族コミュニティと緊密に連携し、彼ら自身の関心や価値観を反映させながら進めることとした。これにより、言語と文化の記録・保存という学術的な目的を達成するだけでなく、コミュニティ自身によるそれらの継承・再活性化を促し、黒タイ族のアイデンティティの維持・向上にも資することをめざした。

３．研究の方法

本研究では、言語学、文化人類学、社会言語学など複数の学問分野の手法を組み合わせ、学際的なアプローチを採用した。現地調査では、参与観察、インタビュー、アンケート、実験など、多様な手法を用いてデータを収集した。言語データの収集では、黒タイ語の基礎的な文法や語彙のデータを集めるとともに、日常会話や物語、歌謡など、様々なジャンルの言語使用を記録・分析した。文化データの収集では、伝統的な儀礼や芸能の記録、古老への聞き取り調査、伝統的な生業や工芸技術の調査などを行った。

これらの調査では、コミュニティの若者たちにも積極的に参加してもらい、調査の補助や通訳、データ整理などを担当してもらった。これは、単に研究の効率化を図るだけでなく、若者たちが自分たちの言語や文化に関心を持ち、その価値を再認識するきっかけとなることをねらいとしたものである。また、コミュニティの人々を対象とするワークショップを開催し、言語や文化の記録・継承に関する研修を行うことで、コミュニティ自身が主体的に言語・文化の維持・継承に取り組む基盤作りを行った。

４．研究成果

本研究の主な成果は、黒タイ族コミュニティのメンバーの関心や価値観を反映した黒タイ語の言語、黒タイ族の文化に関する多様なデータ群である。そこには、黒タイ語の音声、例文、日常会話や口承文芸、伝統的な儀礼や芸能の映像記録、古老の証言に基づく口頭伝承、伝統的な生活様式や価値観に関する民族誌的情報など、多岐にわたるデータが収められている。

これらのデータは、言語学、人類学、民俗学など様々な分野の研究に資する貴重な学術的資源となるが、同時に、黒タイ族自身にとっても大きな意味を持つ。特に、コミュニティ、なかでも若者たちが自ら調査や記録作業に参加したことで、黒タイ族の内部の視点に立った、生きた知識を集めることができた点は、本研究の大きな特色であり、成果である。また、ワークショップを通じて、言語や文化の記録・継承に関する技術の移転を図ったことで、コミュニティの自律的な言語・文化維持活動の基盤を築くことができた。

本研究の成果は、国内外の学会で発表し、高い評価を得た。また、他の消滅危機言語コミュニティとも連携し、本研究で得られた知見を他の言語・文化保全プロジェクトにも応用する取り組みを始めている。本研究は、消滅の危機に瀕した言語・文化の記録と継承のための新しいモデルを提示したという点で、学術的にも社会的にも大きなインパクトを持つものと言える。

今後は、構築したデータ群を黒タイ族コミュニティで広く共有し、学校教育や生涯学習の場で

活用する取り組みを進める予定である。また、黒タイ語と黒タイ文化の継承・再活性化につなげるため、コミュニティ主導の言語・文化イベントの開催や、伝統工芸品の製作・販売の支援など、実践的な活動にも力を入れていく。さらに、他の少数民族コミュニティとの交流・連携を深め、少数民族が直面する共通の課題解決に向けた国際的なネットワーク作りにも取り組んでいきたい。

グローバル化が進む現代社会において、少数民族が自らの言語と文化を維持し、そのアイデンティティを保っていくことは容易ではない。しかし、本研究で得られた知見とナレッジベースは、黒タイ族のみならず、世界中の少数民族にとって、自分たちの言語・文化の価値を再認識し、それを次世代に継承していく上で、大きな助けとなるはずである。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計23件（うち査読付論文　7件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　1件）

１．著者名 横山晶子，冨岡裕，中山俊秀	４．巻 47
２．論文標題 危機言語コミュニティにおける、家庭内での言語選択の変遷 ―北琉球沖永良部島を事例に―	５．発行年 2024年
３．雑誌名 琉球の方言	６．最初と最後の頁 71-84
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 Horiuchi Fumino;Nakayama Toshihide	４．巻 39(1)
２．論文標題 Commas as a constructional resource: the use of a comma in a formulaic expression in Japanese social media texts	５．発行年 2023年
３．雑誌名 Journal of Japanese Linguistics	６．最初と最後の頁 145-163
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1515/jjl-2023-2010	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 長谷川晶一;中山俊秀他	４．巻 -
２．論文標題 VRを活用するメタバースコミュニティの理解にむけて	５．発行年 2023年
３．雑誌名 第28回日本バーチャルリアリティ学会大会論文集	６．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 中山俊秀	４．巻 -
２．論文標題 適応することば：内的要因による言語変化	５．発行年 2023年
３．雑誌名 菊澤律子、吉岡乾（編）『しゃべるヒト：ことばの不思議を科学する』	６．最初と最後の頁 240-247
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Ryoko Nishii	4．巻 -
2．論文標題 Penetrating the Body: Spirit Possession at a Southern Thailand School: Towards an Anthropology of Affect	5．発行年 2023年
3．雑誌名 Kaori Fushiki, Ryoko Sakurada eds. Anthropology through the Experience of the Physical Body. Springer.	6．最初と最後の頁 117-128
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 小川芳樹，中山俊秀	4．巻 -
2．論文標題 変化・変異・進化の事実に向き合う種々の言語理論 ― 必要なのは対立か，対話か，連携か ―	5．発行年 2022年
3．雑誌名 小川芳樹，中山俊秀編『コーパスからわかる言語変化・変異と言語理論３ 』	6．最初と最後の頁 1-28
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 中山俊秀	4．巻 -
2．論文標題 言語の多様性が教えてくれること：言語システムの動的性質と文脈依存的性質	5．発行年 2022年
3．雑誌名 日本音響学会第148回研究発表会論文集	6．最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 西井涼子，藤井光	4．巻 -
2．論文標題 BLMを芸術につなぐ―差別が意味すること	5．発行年 2022年
3．雑誌名 武内進一・中山千賀子編『ブラック・ライヴス・マターから学ぶ―アフリカからブローバル世界へ』東京外国語大学出版会	6．最初と最後の頁 261-280
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Ryoko Nishii	4．巻 -
2．論文標題 Introduction: Community Movements in Southeast Asia	5．発行年 2022年
3．雑誌名 Ryoko Nishii and Shigeharu Tanabe eds., Community Movements in Southeast Asia: An Anthropological Perspective of Assemblages, Silkworm Books	6．最初と最後の頁 1-17
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Ryoko Nishii	4．巻 -
2．論文標題 Forest memory and Community Movements: Hmong Communities in Thailand	5．発行年 2022年
3．雑誌名 Ryoko Nishii and Shigeharu Tanabe eds., Community Movements in Southeast Asia: An Anthropological Perspective of Assemblages, Silkworm Books	6．最初と最後の頁 93-123
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 西井涼子	4．巻 22-2
2．論文標題 死者と『顔』	5．発行年 2022年
3．雑誌名 日本顔学会誌	6．最初と最後の頁 53-59
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Ryoko Nishii	4．巻 -
2．論文標題 Approaching the World of the Living from the Extreme of ‘the Invisible’: Thoughts on Spirits, the Dead, and Radioactivity	5．発行年 2023年
3．雑誌名 Kaori Kawai ed. Extremes: the Evolution of Human Sociality, Kyoto University Press and Trans Pacific Press	6．最初と最後の頁 257-308
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 西井涼子，藤井光	4．巻 －
2．論文標題 BLMを芸術につなぐ―差別が意味すること	5．発行年 2022年
3．雑誌名 武内進一・中山千賀子編『ブラック・ライヴス・マターから学ぶ－アフリカからブローバル世界へ』東京外国語大学出版会	6．最初と最後の頁 261-280
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Ryoko Nishii	4．巻 －
2．論文標題 Introduction: Community Movements in Southeast Asia	5．発行年 2022年
3．雑誌名 Ryoko Nishii and Shigeharu Tanabe eds., Community Movements in Southeast Asia: An Anthropological Perspective of Assemblages, Silkworm Books	6．最初と最後の頁 1-17
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Ryoko Nishii	4．巻 －
2．論文標題 Forest memory and Community Movements: Hmong Communities in Thailand	5．発行年 2022年
3．雑誌名 Ryoko Nishii and Shigeharu Tanabe eds., Community Movements in Southeast Asia: An Anthropological Perspective of Assemblages, Silkworm Books	6．最初と最後の頁 93-123
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 中山俊秀	4．巻 －
2．論文標題 私たちの中のBLM	5．発行年 2022年
3．雑誌名 武内進一・中山千賀子編『ブラック・ライヴス・マターから学ぶ－アフリカからブローバル世界へ』東京外国語大学出版会	6．最初と最後の頁 372-375
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 中山俊秀，大谷直輝	4．巻 -
2．論文標題 用法基盤モデルの言語観	5．発行年 2020年
3．雑誌名 中山俊秀，大谷直輝(編)「認知言語学と談話機能言語学の有機的接点」ひつじ書房	6．最初と最後の頁 3月25日
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 中山俊秀，大谷直輝	4．巻 -
2．論文標題 認知言語学と談話機能言語学	5．発行年 2020年
3．雑誌名 中山俊秀，大谷直輝(編)「認知言語学と談話機能言語学の有機的接点」ひつじ書房	6．最初と最後の頁 27-48
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 Toshihide Nakayama, Fumino Horiuchi	4．巻 172
2．論文標題 Demystifying the development of a structurally marginal pattern: A case study of the wa-initiated responsive construction in Japanese conversation	5．発行年 2020年
3．雑誌名 Journal of Pragmatics	6．最初と最後の頁 215-224
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1016/j.pragma.2020.11.018	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 堀内ふみ野，中山俊秀	4．巻 -
2．論文標題 発話頭の「ハ」成立の動機付け－動的文法観に基づく一考察－	5．発行年 2020年
3．雑誌名 田中廣明他（編）「動的語用論の構築に向けて」開拓社	6．最初と最後の頁 176-197
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 西井涼子	4．巻 -
2．論文標題 弔いとしての家―情動・モノ・死者	5．発行年 2020年
3．雑誌名 西井 涼子，箭内 匡(編)『アフェクトゥス（情動）―生の外側に触れる』京都大学学術出版会	6．最初と最後の頁 127-157
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 西井涼子・箭内匡共著	4．巻 -
2．論文標題 はじめに	5．発行年 2020年
3．雑誌名 西井 涼子，箭内 匡(編)『アフェクトゥス（情動）―生の外側に触れる』京都大学学術出版会	6．最初と最後の頁 1-7
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

1．著者名 箭内匡・西井涼子共著	4．巻 -
2．論文標題 アフェクトゥスとは何か？	5．発行年 2020年
3．雑誌名 西井 涼子，箭内 匡(編)『アフェクトゥス（情動）―生の外側に触れる』京都大学学術出版会	6．最初と最後の頁 405-434
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計21件（うち招待講演　4件／うち国際学会　8件）

1．発表者名 Tomoyuki Sao, Riri Sao, Yukie Matsumura, Yutaka Tomioka, Toshihide Nakayama
2．発表標題 My FSR: Family Social Responsibility - A sustainable and mindful way of life
3．学会等名 7th International Conference on Language and Education: : Multilingual Education For Transformative Education Systems And Resilient Futures（国際学会）
4．発表年 2023年

１．発表者名 Toshihide Nakayama
２．発表標題 How far can we go with the clause?
３．学会等名 18th International Pragmatics Conference（国際学会）
４．発表年 2023年

１．発表者名 Fumino Horiuchi, Toshihide Nakayama
２．発表標題 Mobilizing syntactic rules for discourse organization: A case study of utterances starting with a dependent element in Japanese
３．学会等名 18th International Pragmatics Conference（国際学会）
４．発表年 2023年

１．発表者名 Toshihide Nakayama
２．発表標題 What 'grammatically deviant' patterns can tell us about grammar
３．学会等名 International Symposium on Rethinking Grammar（国際学会）
４．発表年 2024年

１．発表者名 西井涼子
２．発表標題 ムスリムと仏教徒の共生地域における日常－タイの場合
３．学会等名 神奈川大学アジア研究センター開設１０周年記念シンポジウム「アジアの日常」（招待講演）
４．発表年 2023年

１．発表者名 中山俊秀
２．発表標題 文法体系の拡張：逸脱構文の発達事例から考える
３．学会等名 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同利用・共同研究課題「理論言語学と言語類型論と計量言語学の対話にもとづく言語変化・変異メカニズムの探求」2022年度第2回研究会
４．発表年 2022年

１．発表者名 中山俊秀
２．発表標題 言語の多様性が教えてくれること：言語システムの動的性質と文脈依存的性質
３．学会等名 日本音響学会第148回研究発表会（招待講演）
４．発表年 2022年

１．発表者名 西井涼子
２．発表標題 現代タイにおける死生観
３．学会等名 ライフヒストリーサルとヒトの誕生・成長・死
４．発表年 2022年

１．発表者名 西井涼子
２．発表標題 死者のリアリティ―身体・マテリアリティ・記憶
３．学会等名 第7回公開シンポジウム「トランスカルチャー状況下における顔・身体学の構築」
４．発表年 2023年

１．発表者名 西井涼子
２．発表標題 死者とともにあるということ―ナー・チュアの場合
３．学会等名 国立民族学博物館共同研究「被傷性の人類学/人間学」
４．発表年 2023年

１．発表者名 堀内ふみ野，中山俊秀
２．発表標題 ネタさえあれば、だけどね：読点を含めた定型表現研究の可能性
３．学会等名 International Symposium on Formulaicity in Interactional Discourse（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 堀内ふみ野，中山俊秀
２．発表標題 ただの点、だけどね：構文構成素としての読点
３．学会等名 日本言語学会第162回大会
４．発表年 2021年

１．発表者名 中山俊秀
２．発表標題 用法基盤アプローチが関心を向ける「語」のリアリティ
３．学会等名 AA研共同利用・共同研究課題「理論言語学と言語類型論と計量言語学の対話にもとづく言語変化・変異メカニズムの探求」2021年度第2回研究会
４．発表年 2021年

１．発表者名 Toshihide Nakayama, Fumino Horiuchi
２．発表標題 ‘Structural incompletion’ as a communicative strategy: What motivates utterances starting in the middle?
３．学会等名 16th International Conference of the European Association of Japanese Studies（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 中山俊秀
２．発表標題 『周辺的』文法パターンは文法研究をどのように広げてくれるのか
３．学会等名 日本英語学会第39回大会（招待講演）
４．発表年 2021年

１．発表者名 中山俊秀
２．発表標題 扱いにくいデータが教えてくれること：逸脱的構文が明らかにする文法システムの文脈依存性
３．学会等名 東京外国語大学AA研フォーラム：『アジア・アフリカの現代的諸問題の解決に向けた新たな連携研究体制の構築』（招待講演）
４．発表年 2021年

１．発表者名 西井涼子
２．発表標題 『アフェクトゥス』解題－生の潜在性から思考する
３．学会等名 第1回「死の人類学再考―変容する現実の人類学的手法による探究」AA研共同利用・共同研究課題
４．発表年 2021年

１．発表者名 西井涼子
２．発表標題 死者と（顔）身体
３．学会等名 第26回日本顔学会大会（フォーラム顔学2021）新学術領域『顔身体学』特別企画『象徴としての顔身体を考える』
４．発表年 2021年

１．発表者名 中山俊秀，堀内ふみ野
２．発表標題 ネタさえあれば、だけどね：読点を含めた定型表現研究の可能性
３．学会等名 International Symposium on Formulaicity in Interactional Discourse（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 堀内ふみ野，中山俊秀
２．発表標題 発話を超えて発達した定型性ー係助詞ハで始まる発話
３．学会等名 International Symposium on Formulaicity in Interactional Discourse（国際学会）
４．発表年 2021年

１．発表者名 西井涼子
２．発表標題 情動（affect）と社会性、そしてフィールドワーク
３．学会等名 AA研共同利用・共同研究課題　第５回「社会性の起原：ホミニゼーションをめぐって」
４．発表年 2020年

〔図書〕　計6件

1．著者名 小川芳樹，中山俊秀	4．発行年 2022年
2．出版社 開拓社	5．総ページ数 445
3．書名 コーパスからわかる言語変化・変異と言語理論３	

1．著者名 Ryoko Nishii, Shigeharu Tanabe	4．発行年 2022年
2．出版社 Silkworm Books	5．総ページ数 312
3．書名 Community Movements in Southeast Asia: An Anthropological Perspective of Assemblages	

1．著者名 Ryoko Nishii and Shigeharu Tanabe	4．発行年 2022年
2．出版社 Silkworm Books	5．総ページ数 -
3．書名 Community Movements in Southeast Asia: An Anthropological Perspective of Assemblages	

1．著者名 Sumittra Suraratdecha, Toshihide Nakayama	4．発行年 2020年
2．出版社 John Benjamins	5．総ページ数 122
3．書名 Documentary Linguistics: Working with Communities	

1．著者名 中山俊秀，大谷直輝	4．発行年 2020年
2．出版社 ひつじ書房	5．総ページ数 395
3．書名 認知言語学と談話機能言語学の有機的接点：用法基盤モデルに基づく新展開	

1．著者名 西井涼子・箭内匡(編)	4．発行年 2020年
2．出版社 京都大学学術出版会	5．総ページ数 447
3．書名 アフェクトゥス―生の外側に触れる	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

6．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	西井　涼子 (Nishii Ryoko) (20262214)	東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・教授 (12603)	
研究分担者	冨岡　裕 (Tomioka Yutaka) (90816505)	神田外語大学・外国語学部・講師 (32510)	

7．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

8．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関

タイ	Mahidol University			